

岐阜県中山間農業研究所ニュース

2015年度 第1号

本 所 〒509-4244 岐阜県飛騨市古川町是重2-6-56
TEL: 0577-73-2029 FAX: 0577-73-2751
中津川支所 〒509-9131 岐阜県中津川市千旦林鍛冶屋平643-1
TEL: 0573-68-2036 FAX: 0573-68-3116

E-mail: c24402@pref.gifu.lg.jp
<http://www.k-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>



©岐阜県

2015年度が始まりました。今年度もよろしくお願ひします。

さて、岐阜県では今年度より、東京オリンピックが開催され消費の刺激が期待される2020年を目指して、『2020清流の国ブランド開発プロジェクト』として、地域の企業と共に商品の高付加価値化や新商品の開発を行います。当研究所は本プロジェクトの中で、当研究所で育成した新品種を活用した農産品や商品の開発について、農家、加工品製造業者、農政部以外の研究機関とも連携したネットワーク型の研究体制で取り組みます。本号ではこの『2020清流の国ブランド開発プロジェクト』で当研究所が行う研究の概要についてご紹介します。

● 焼かない陶器鉢を使用した新たな鉢花商品の開発

東京オリンピックを岐阜県の鉢花を国内外にPRできる好機ととらえ、高級感がある陶器鉢と組み合わせた鉢花の開発を狙います。「焼かない陶器鉢」という県セラミックス研究所の新技术を用い、オリジナル商品の開発に向けて共同研究を行います。焼かない陶器鉢は、製造時のCO₂排出量低減と省エネ技術で注目されますが、従来の鉢とは異なった性質が想定されるので、新たな機能が期待できる一方で植物との相性も未知です。このためシクラメンやランなどの中山間地の主要品目でこの鉢を用いた栽培試験を開始し、新たなブランド商品の開発に取り組みます。



リカステ（左）とシクラメン（右）の陶器鉢製品のイメージ

● クリの高温対策技術開発と熟成技術による新品種の商品展開

当県発祥の銘菓「栗きんとん」は、全国的な人気の高まりで需要が増加していますが、近年、温暖化の影響で主産県の原料クリの供給・品質が不安定となっています。

こうした中、当所育成の県オリジナル新品種『えな宝来』、『えな宝月』が栽培され始め、岐阜県にしかないクリとして、夏の高温対策技術の検討を進めながら、高品質な原料の増産・安定供給につなげていきます。さらに、県産業技術センターと連携し、加工上重視される色・風味等の果肉品質や機能性並びに熟成・加工条件を検討することで、今までの商品との差別化につなげていきます。



新品種「えな宝来」と銘菓「栗きんとん」

● 飛騨・美濃伝統野菜「^{たかはらさんしょう}高原山椒」の生産安定と新商品開発

高山市奥飛騨温泉郷（旧上宝村）の高原川流域は、江戸時代から続く実山椒の産地です。ここで生産される山椒は「高原山椒」と呼ばれ、実が小粒で香りが強く長持ちするのが特徴で、七味の原料として主に京都へ出荷されています。しかし、冬の凍害や春の晩霜害などで生産が不安定となっていることから、これらの対策技術について試験を開始します。さらに、地元の加工品製造業者等と連携し、「高原山椒」の特徴を生かした新たな商品の開発に取り組みます。



飛騨・美濃伝統野菜の「高原山椒」

人事異動（平成27年4月1日付） よろしくお願ひします。

転入者	新所属	旧所属	転出者	新所属	旧所属
鍵谷俊樹	支所長	下呂農林事務所	長谷川雅也	農政課	支所長
蒲 高博	本所課長補佐 兼係長	高山土木事務所	秋月正幸	下呂看護 専門学校	本所課長補佐 兼係長
磯村秀昭	支所専門研究員	恵那農林事務所	神尾真司	農政課	支所主任専門研究員
佐藤秀人	本所専門研究員	農業技術センター	山田隆史	岐阜農林事務所	本所専門研究員
坂田 肇	本所主査	古川土木事務所	蒲 正明	飛騨県税事務所	本所主査
野尻修佑	本所農業技手	新任			
岩見祐希也	本所農業技手	新任			